

# NEWS LETTER



岩手大学  
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部  
岩手県立大学宮古短期大学部  
岩手医科大学  
富士大学  
盛岡大学・盛岡大学短期大学部  
放送大学岩手学習センター  
一関工業高等専門学校  
岩手保健医療大学

～ 岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2023.Oct  
No. 30

## Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
  - いわて学
  - 地場産業・企業論／企業研究
  - グローカル基礎研修
  - ボランティアとリーダーシップ
  - 地域課題解決プロジェクト「コンヤ、行こっか。」
  - 駅前講義
  - 大学進学率向上プロジェクト

## ご挨拶

令和3（2021）年から岩手保健医療大学の学長・学部長を兼任しております濱中喜代と申します。いわて高等教育コンソーシアムに本年度から正式加盟させていただきました。歴史あるいわて高等教育コンソーシアムに加盟して、高等教育機関の1つとして活動できることを大変光栄に思います。構成機関の皆様にはどうぞよろしく願いいたします。

本学は平成29（2017）年に盛岡駅西口徒歩5分の処に新たに開設した看護学部単科の小さな大学でございます。看護師は全員、保健師は20名定員で国家試験受験資格を得ることができます。あっという間に6年が過ぎ、3月には学部生3期生と大学院生1期生が卒業しました。今年度は学部生7期生78名と大学院生3期生4名が入学いたしました。

本学の建学の精神は「人々の生活と健康を高め、地域社会に貢献するケア・スピリットを備えた保健医療人」です。ケア・スピリットとは本学が独自に造った言葉で「自ら進んでケアに向かう姿勢」と定義しております。本学では、学部生には4年間を通してケア・スピリットを身につけてもらい、看護を提供する場で、ケア・スピリットを十分に発揮できる看護職の育成を目指しております。大学院生にはケア・スピリットをさらに教育・研究・社会貢献に結び付け発展させることのできる実践的・研究的な資質を育みたいと思い、教育しております。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界は大きく様変わりしました。看護学教育の場も大きな影響を受けました。全国の多くの地域では長期間、遠隔授業が余儀なくされました。本学では何とか対面授業を維持しましたが、病院実習等は残念ながら一部は学内演習に置き換えられることもありました。教育方略において様々な工夫を凝らして対応して参りました。現在、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、人々の生活も少しずつ平常に戻りつつありますが、医療機関への影響はまだ続いております。教育の質の維持・向上を図るために、さらにより良い教育方略を検討し実践している所でございます。

いわて高等教育コンソーシアムの令和5（2023）年の事業計画では将来ビジョンに基づく既存事業の整理・新事業の検討、いわて高等教育地域連携プラットフォームとの連携、グローバル人材育成プロジェクトチームの活動等が掲げられております。本学は単位互換・高大連携推進委員会に加えていただき、活動することになりました。いわて高等教育コンソーシアムは地域の中核を担う人材育成を柱に戦略的・大学連携事業を進めてきたと伺っております。時代の変化に合わせて積極的に地域・社会を支え、改善していく資質を有する人材の育成のために、微力ではございますが邁進して参りたいと思います。



岩手保健医療大学  
学長・学部長  
濱中 喜代

## コア科目(必修) 前期集中講義「いわて学」

今年度のいわて学は「いわての民話・伝承」と題して遠野地域に残る民話や習俗を民俗学の視点から理解し、それらを活用した遠野市の観光戦略について学びました。

民話や習俗の学術的位置づけ、日本の民俗学の成り立ちやその考え方の基礎を弘前大学人文社会科学部の山田殿子先生からご講義いただき、東北各地の地域的差異や共通性から遠野のオシラサマの起源、それが後に馬産や養蚕と結びつく歴史の変遷について説明されました。

日本初の民俗学を中心とした遠野市立博物館を訪れ、柳田国男の『遠野物語』が世に出るまでの経緯、「昔話」が学術の対象になるまでの流れ、そして、その遠野物語を観光に活用する遠野市の観光戦略の変遷についての講義を受けました。

翌日はグループ毎に設定したテーマについて現地調査を行い、現地見学や文献調査したこと等を組み合わせ、最終日に各グループが調査成果を発表して授業を終えました。

昨年度に続いて履修者が多く計45人(岩手県立大学34人、岩手大学9人、盛岡大学2人)でしたが、今回はテーマのためか女子学生比率が高く、8割強が女子学生となりました。



遠野市立博物館のオシラサマの展示について話を聴く



遠野ふるさと村にて、語り部の女性から民話を聴くグループ

## コア科目(選択)「地場産業・企業論/企業研究」

地場企業の抱える課題に対して、デザインシンキングの手法を用いて解決策を導き出すことで県内企業についての知見を深めるとともに、課題を発見し解決へと導く能力を身に付けることを目的として実施致しました。

授業は集中講義で行われ、まずデザインシンキングのプロセスをワークショップを通じて実際に体験しました。続いて、県内の企業見学を通じて企業が抱える課題を発見し、着眼点を整理した上で、ペルソナやカスタマージャーニーマップの作成やアイデアの創造を実践しました。最終日にはデザインシンキングの活用を支援するSAPジャパン(株)の阿部様もご参加いただき、学生達が考えたソリューションについて発表会を実施しました。

2023年度は1グループ4～5名から成る5グループ(岩手大学3名、岩手県立大学20名)が構成されました。地場企業は東日本機電開発(株)様の御協力を賜り、社長の水戸谷様をはじめ従業員の方々にも多数ご参加いただきました。課題の発見や新たな発想というのは生まれつきクリエイティブな人だけのものではなく、適切な手法を用いて誰でも実践できることを実感できたと同時に、学生にとっても東日本機電開発(株)様にとっても新たな発見があり刺激になったようです。



地場企業訪問時の従業員インタビューの様子



ソリューション発表の様子

## コア科目(選択)「グローバル基礎研修」



毛越寺の見学風景



発表の様子

本講義は平泉を広い視野から捉えることを目的としており、今年度は8月28日(月)から31日(木)に実施しました。受講者は23名(岩手大学生19名、盛岡大学生4名)でした。

最初の2日間は基礎的知識を得るため、「文化財論」、「歴史学(古代史)」、「歴史学(仏教史)」、「考古学」の観点から平泉について学びました。ここでは、平

泉の歴史・文化の特徴について、地域史という視点にとどまらず、日本史、東アジア史のなかに位置づける講義が展開されました。

3日目は八木光則氏(岩手大学平泉文化研究センター客員教授)の案内のもと、現地見学を行い、平泉文化遺産センター、中尊寺、毛越寺、無量光院跡、平泉世界遺産ガイダンスセンター、柳之御所遺跡をめぐりました。4日目はグループワークを実施し、平泉への興味・関心について、これまでの学習成果を踏まえて議論を行ったうえで、プレゼンテーション資料を作成し、発表しました。

受講者が講義・現地見学に熱心に参加し、グループワークおよびプレゼンテーションに取り組んだことにより、大変充実した内容の講義になりました。



## コア科目(必修)前期集中講義 「ボランティアとリーダーシップ」

地域リーダー育成プログラムの必修科目「ボランティアとリーダーシップ」は、集中講義形式で行われ、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方について学び、ボランティア実習を通して実践することで、様々な状況に対応し得る能力と知見の修得を目的としています。

今年度の講義日程は9月5日(火)から8日(金)の4日間で、前半2日間はいわて県民情報交流センター(アイーナ)を会場に講義を開講し、後半の2日間は1泊2日の実習を含んだ合宿形式で行いました。本講義は、コロナ禍のため令和2年度以降合宿を中止しておりましたが、今年度は4年ぶりに宿泊実習を実施することができました。受講者数は36名(岩手大学35名、盛岡大学1名)でした。

初日の西村千尋先生(歩健学研究室)の講義では、コミュニケーションの取り方や相手との信頼関係の築き方をアイスブレイキングなどを通して学び、吉田祐一郎先生(四天王寺大学)からの講義では、ボランティア活動の基礎知識や実際の活動方法、活動する上での心構えなどを学び、ボランティアに対するイメージを実際に書き出して言語化するワークを行いました。2日目の後藤尚人先生(岩手大学)の講義では、リーダー論・リーダーシップ論について学び、地域リーダー像を多角的な視点から考察しグループごとに発表を行いました。

3日目からは1泊2日の宿泊実習として釜石市の根浜海岸へ行き、旅館『宝来館』を営む女将の岩崎様による東日本大震災被災時の実体験を交えた貴重なお話を拝聴した後、海岸前の松林に落ちている松葉の回収や草刈り、砂浜の清掃などボランティア実習を行いました。実習後は山田町にある岩手県立陸中海岸青少年の家に移動し、フォローアップ講義を行い、グループごとに実習の振り返りをし、考察などを発表しました。

講義受講後のアンケートでは学生から、「講義や班での話し合いだけでなく実践的な活動があることで五感で学ぶことができた」「ボランティアは想像以上に奥が深くボランティアする側に得られるものが多くあると感じた。今回の授業に参加できて良かった」などの感想が寄せられました。4年ぶりに合宿を行ったことで、より一層学生同士の絆が深まり、学生の皆さんの成長を感じられる4日間となりました。



グループワークの様子



ボランティア実習の様子(釜石市根浜海岸)



講義最終日 集合写真(岩手県立陸中海岸青少年の家)

## 地域課題解決プロジェクト 中津川エリア活性化プロジェクト「コンヤ、行こっか。」



完成したスタンプラリー台紙とプロジェクトメンバー

令和3年度から地域課題解決プロジェクトとして活動を開始した、中津川エリア活性化プロジェクト「コンヤ、行こっか。」は、令和4年10月から新メンバー4名(岩手大学2名、盛岡大学2名)で新たに活動をスタートしました。

令和5年度は、紺屋町で春に行われている紺スタというイベントに大学生を引き込むための企画・運営を活動の柱に取り組みました。前年度までの活動を引き継ぐ形で、令和4年12月からSNSで紺屋町界隈の情報発信を開始し、令和5年4月から5月にかけて、学生にはあまり馴染みがない紺スタに興味を持ってもらうことを目的として、メンバーが所属している岩手大学と盛岡大学で紺スタと連動したスタンプラリーを開催しました。スタンプは全3種類をコンプリートすると3コマ漫画が完成する仕組みになっており、各大学構内にそれぞれ2か所と紺スタ参加店のひとつである岩手銀行赤レンガ館に設置しました。スタンプラリーカードは計2,000枚作成し、新入生を対象としたオリエンテーションや大学の食堂で配布しました。

活動の途中で新たにメンバー2名(岩手大学1名、岩手県立大学1名)が加わり、10月からはメンバー6名で来年開催される紺スタに向けた準備を開始する予定です。



## ～ 大学での学びをちょっとのぞいてみませんか? ～ 単位互換・高大連携「駅前講義」



展示会場の様子

県内高校生の進学意識の向上を目的とした「駅前講義」を、岩手県立大学アイーナキャンパス（盛岡市）を会場に、対面ならびにオンライン配信で8月3日（木）に開催しました。

講義では、「大学での学びとこれからのデータサイエンス・AI社会」と題して、岩手県立大学猪股俊光教授から、大学で学ぶ意義、大学・進学に関する情報の収集方法や、大学入学前、在学中、卒業後の学びについて、これからの社会 Society5.0 の話題やいわて高等教育コンソーシアム単位互換制度の紹介等を交え、説明いただきました。受講者からは「大学についての情報を学ぶことができ良かった」、「進路選択の参考になった」等の感想が寄せられました。

また、講義の終了後、「大学進学のスズメ」と題し、現役大学生が自身の体験談を交えた発表を行いました。受講者からは「学生自身の声で大学生活等について聞くことができ良かった」と好評でした。

そのほか、展示会場では、大学進学についてのPRや県内各大学の紹介を行い、受講者は各大学の案内や学生生活の展示等を熱心に見学していました。



猪股教授による講義



大学生による発表

## 単位互換・高大連携「大学進学率向上プロジェクト」

本プロジェクトは、岩手県内の高校で、これまで大学進学を考えていなかった生徒・保護者に、大学進学を考えてもらう機会を作り、それを契機に、県内のみならず全国の大学への進学を実現し、大学進学率の向上に繋げるという活動で、単位互換・高大連携推進委員会の大学進学率向上プロジェクトチームが中心となり実施しています。

例年パンフレット「大学進学のスズメ」を発行し、岩手県内の高等学校に配布するほか、大学進学に関する講演会を岩手県内の高等学校で行っています。令和5年度は、9月16日に岩手県立不來方高等学校が開催した「令和5年度第1学年PTA保護者進路説明会」において、単位互換・高大連携推進委員の佐々木修一富士大学入試部長が「これからの大学進学」と題して講演を行いました。

講演会には生徒保護者約80名が参加し聴講しました。生徒の進路指導の充実を目的に行われた進路説明会での講演ということもあり、生徒、保護者が大学進学を真剣に考える、良い機会となりました。



講演の様子（不來方高校）

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局（岩手大学法人運営部総務広報課内）

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014 [E-mail] ihatov5@iwate-u.ac.jp [URL] http://www.ihatov-u.jp/